

### 資料3 新たな視点からみる部門別方針の整理

都市を取りまく新たな視点の7つの切り口から、上位計画や社会情勢を踏まえ、今後の都市づくりで検討していく必要がある取組を現行都市マスタープランの部門別に整理しました。

		現行都市マスタープランの部門					
		土地利用	道路・交通ネットワーク	緑と水のまちづくり	住宅・住環境形成	景観形成	防災まちづくり
都市整備を取り巻く動向	人口減少社会・人生100年時代を見据えたまちづくり		○まちの面的・一体的なバリアフリー化の促進	○インクルーシブ <sup>※1</sup> な公園整備	○ライフステージに合わせた住み替えの誘導や居場所づくり ○超高齢社会に配慮したバリアフリー化		○災害時要配慮者への対応
	首都直下地震や気候変動に備えた地域強靱化	○大規模災害に備えたエネルギーの自律分散化によるエリア防災の推進			○更なる耐震化の促進 ○災害時も住み続けられる住宅の普及		○集中豪雨のリスクを踏まえた水害対策の強化 ○帰宅困難者対策
	2050年カーボンニュートラルに向けた脱炭素化の強化	○脱炭素なまちづくりの誘導（開発等におけるZEBや自律分散型エネルギーの誘導）	○道路インフラの省エネ化 ○ZEV <sup>※2</sup> 普及に向けたインフラ整備	○水と緑のネットワーク軸を基軸にしたヒートアイランド対策やCO2削減	○住宅の脱炭素化（ZEH） ○家庭における省エネ対策の推進	○景観計画に基づく神田川沿いやそれに面する風致地区の景観保全。	○再生可能エネルギーの確保等による都市のレジリエンス機能の向上
	新型コロナ危機を踏まえたまちづくり	○複数の用途が融合した職住近接に対応した土地利用の誘導	○自転車を利用しやすい環境整備 ○新しい街路空間の考え方とウォークアブル空間の形成	○多様な緑とオープンスペースの創出と活用 ○グリーンインフラとしての緑の再認識	○ニューノーマル社会に対応した職住融合などに合わせた住宅・暮らし方への対応		○多様な避難環境の確保など複合災害への対応
	Society5.0の実現に向けたデジタル技術の活用	○3D都市モデル等の都市空間基盤データ整備の推進	○新たなモビリティによる多様な移動手段 ○デジタル技術を活用した気軽に安全な移動	○公園管理におけるデジタル技術の導入 ○緑化空間等の定量的把握と効果分析へのデジタル技術の活用	○IoTなどの先端技術を活用した住まい ○デジタルプラットフォーム等を活用した多様なコミュニティのあり方	○デジタル技術の活用による歴史・文化等のまちの魅力の発信	○デジタル技術の活用による迅速で的確な情報発信 ○先端技術の活用による自律分散型エネルギー確保
	社会資本の老朽化への対応と有効活用		○更新等の機会を捉えた機能転換 ○先端技術の活用による効率的・効果的なメンテナンス	○地域のニーズに応じた公園の再整備	○高経年化するマンションの円滑な再生促進 ○マンションの適正な管理の促進		
	地域との連携	○開発に合わせたエリアマネジメントの推進	○官民連携による道路空間活用（ほこみち <sup>※3</sup> 等）	○民間活力を導入した公園再整備と活用	○多様なコミュニティ形成		○災害時における企業や住民等との共助 ○民間施設と連携した帰宅困難者の受け入れ

※1 インクルーシブ：あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合うという理念。

※2 ZEV：Zero Emission Vehicle。走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）をいう。

※3 ほこみち：道路法等の改正により賑わいのある道路空間を構築するための道路の指定制度「歩行者利便増進道路制度」の通称。ほこみちに指定された道路では、歩行者が安心・快適に通行・滞留できる空間の構築を可能とする等が規定されている。